

平成31年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査の結果について（5年）

令和元年7月4日に5年生の学力調査が行われました。その結果が集計されましたので、お知らせします。児童一人一人には、個人の結果と分析を配布いたしました。それには、問題の内容別の正答率が出ています。各ご家庭で学習内容がどれくらい身に付いているかを確認して、今後の学習に役立てていただければ幸いです。学校としては、この結果や分析から授業改善プログラムに反映するなどして、本校の教育活動の一層の充実と改善を図ってまいります。ご理解とご協力をお願いいたします。

1. 結果

【教科の内容】 学年正答率（太字は東京都の数値を上回っているもの）

	思考・判断・表現 (国語：話す・聞く)		技能 (国語：書く)		知識・理解 (国語：言語)		読む	
	大泉小	東京都	大泉小	東京都	大泉小	東京都	大泉小	東京都
国語	68.2	65.3	69.7	70.4	72.4	67.4	67.9	67.4
社会	66.1	63.5	70.5	66.8	79.8	70.6		
算数	52.2	47.2	69.2	65.0	69.3	67.6		
理科	57.5	53.0	70.3	67.0	63.2	55.0		

2. 結果の分析

【教科の内容】に関しては、国語の「書く」以外はすべての項目において大泉小の正答率が東京都の正答率を上回っています。つまり、国語・社会・算数・理科の4教科について、学習したことがおおむね身に付いていると言えます。特に、「知識・理解」における数値が大きく上回っており、学習したことが知識としてしっかりと定着していることが分かります。社会や理科で、様々な資料を通して課題に気付かせ、解決に向けて考えさせたり表現させたりすることを繰り返してきた学習活動の成果であると考えます。

しかしながら、学習は内容を理解し、知識を身に付けていけばよいのではなく、自ら考え、判断し、表現したり、また身に付けた知識を次の学習に生かしたりすることができなければなりません。その意味では、今後はもっと「書く」力を育てていく必要があると考えます。学校では、手紙を書く相手や目的を明確にしながら書く事柄を整理し文章を構成させたり、手紙の基本的な形式について指導したりしていきます。また、事例などを挙げながら、相手に伝わるように工夫して文を書くことができるように具体的な指導を行います。

ご家庭では、今後も家庭学習の時間をしっかりと確保していただき、基礎的な力の定着にご協力をお願いいたします。

なお、正答率は母集団の数や分布の様子によっても変わってきますので、配布される一人一人の個人票をご覧ください。